

南アフリカ:再エネ発電導入、グリッド接続制約問題に直面¹

新エネルギー・国際協力支援ユニット

新エネルギーグループ

南アフリカ政府は、2011 年から再生可能エネルギー独立電力事業者入札 (Renewable Energy Independent Power Producer Procurement: REIPPP) プログラムを実施し、五回の入札によって 2016 年までに 3,725MW の再生可能エネルギー発電設備を導入することを目指している²。

第一ラウンド、第二ラウンドの入札はそれぞれ 2011 年と 2012 年に実施され、選定された風力、太陽光、太陽熱発電は総計 44 件、総容量は約 2,500MW であった。これら総ての再エネ発電設備は国营電力会社の Eskom 社と 20 年間の販売契約が締結され、既にグリッドに接続されて操業を開始しているか、建設中となっている³。

第三ラウンドの入札結果は 2013 年 10 月に発表され、787MW (7 件) の風力発電、450MW (6 件) の太陽光発電、200MW (2 件) の太陽熱発電設備が選定された。しかしながら Eskom 社はグリッドの容量に限界があり、これらの発電設備のグリッドへの接続を保留すると発表した。このため事業者は Eskom 社との販売契約、グリッド接続契約を未だ締結することができず、再エネ設備建設工事を開始することができない状況にある⁴。

第四ラウンドの入札は 2014 年 7 月に開始され、11 月に入札結果が発表される予定であったが、未だ発表されていない。この遅れもグリッドの接続容量不足が障害となっている。

南アフリカ政府は 2011 年、2030 年までの電源開発計画である総合電力開発計画 (Integrated Resource Plan for Electricity 2010-2030) を発表し、今後、電源構成における石炭火力のシェアを低下させ、原子力や再生可能エネルギーなどの電源を開発していくことを目指している。同時に再生可能エネルギー産業の促進によって、経済の発展と国内雇用の創出も目指している。

¹本稿は経済産業省委託事業「国際エネルギー使用合理化等対策事業 (海外省エネ等動向調査)」の一環として、日本エネルギー経済研究所がニュースを基にして独自の視点と考察を加えた解説記事です。

² 風力 (1,850MW)、太陽光 (1,450MW)、太陽熱 (200MW) その他

³ 第一ラウンド: 風力 634MW(7 件)、太陽光 632MW (18 件)、太陽熱 150MW (2 件)

第二ラウンド: 風力 571MW(7 件)、太陽光 423MW (9 件)、太陽熱 50MW (1 件)

http://www.eskom.co.za/Whatweredoing/Pages/RE_IPP_Procurement_Programme.aspx

⁴ グリッド接続が保留になっている太陽光発電設備: Adams Solar PV2 (75MW)、Tom Burke Solar Park (60MW)、Mulilo Sonnedix Priesak PV (75MW)、Electra Capital (75MW)、Pulida Solar Park (75MW)、Mulilo Preiska PV (75MW) など

第二ラウンドまで順調に進んできた REIPPP プログラムによって南アフリカは太陽光発電容量で世界のトップ 10 入りを果たした。グリッド接続制約問題を解決し、如何に再エネ電源導入を進展させていくのか、今後の取り組みが注目される⁵。

お問い合わせ : report@tky. ieej. or. jp

⁵ <http://www.ee.co.za/wp-content/uploads/2014/06/southafrica-reipp-report-6-5.pdf> 参照